

第2回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会 議事録

■日時 2015年10月9日(金) 10:00~12:00

■場所 札幌市役所本庁舎6階 1号会議室

■参加者 委員：小澤 丈夫／北海道大学大学院工学研究院准教授
平井 卓郎／北海道大学名誉教授
角 幸博／北海道大学名誉教授
池ノ上 真一／北海道教育大学函館校国際地域学科講師
川上 佳津仁／札幌市観光文化局文化部長
オブザーバー：中本 貴志 /北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ主任
山本 順一／札幌市都市局建築部建築工事課
高山 裕香子／札幌市都市局建築部建築工事課
川上 雅彦／北電総合設計株式会社
宮越 達也／北電総合設計株式会社
木本 浩司／北電総合設計株式会社
酒井 秀治／株式会社ノーザンクロス
萩 佑／株式会社ノーザンクロス
渡辺 智紀／ワンダークルー
佐藤 俊義／北海道造園設計株式会社
事務局：櫛引文化財課長、青木文化財係長、田村
株式会社K I T A B A：神長、窪田、太田
傍聴：1名

1) 開会

2) 地域住民等意見交換会の実施について(資料-3)

(事務局)

- ・前回の理事会で実施することとしていた、地域住民の意見交換会の実施について、現在の状況と今後の予定についてご報告させて頂く。
- ・この地域の方々の意見を充分に取り入れ反映させていくべく意見交換会を実施するという趣旨である。
- ・9月26日(土)に、第1回まちづくりサロンが行われた。これは札幌市役所のまちづくり推進室が実施している、創成東地区全体に関わるまちづくりや活性化に取り組むサロンである。その地区の中の施設として、旧永山武四郎邸の改修予定についてお話をさせて頂いた。
- ・今後は、中央区土木部が主催する、公園に関するワークショップを3回開催予定である。そこで、公園の中の施設という位置づけで、公園と一体となった活用をしていく必要があるということ、今日の委員会でご議論いただいた内容を踏まえて、ワークショップの中で状況報告をさせて頂き、それに関して市民の方からご意見を頂戴できればと考えている。資料-3では、一番右の欄にスケジュールの記載をさせて頂いている。

- ・来年3月に、まちづくり推進室で開催予定であるまちづくりサロンのフォーラム形式での年度の報告を予定しているが、その中で、この施設についてもどのような方向性で活用設計が行われていくのかについて、報告をさせていただきたいと考えている。

(小澤委員長)

- ・第1回のまちづくりサロンは9月26日に既に終了しているということだが、この報告は後日改めてということで宜しいか。

(事務局)

- ・後日報告する。

3) 施設調査結果及び基本設計素案について (資料-4)

(北電総合設計)

- ・資料-4の1枚目裏表は、現況調査した結果の平面図の1階・2階である。黒く塗っている壁の部分が、現状は土壁になっている。想定箇所も含めるが、壁にグラスウールが入っていると思われる所には記載している。
- ・2枚目裏表は立面図だが、前回の委員会でグラスウールや防湿シートと分かっている所や想定も含めてとご指摘があったので、それを色分けしている。緑色が、防湿シートの施工がされている可能性がある所。赤い左斜線が、グラスウールの施工、増築の可能性がある所。黄色は、昭和63年の改修でグラスウールの施工がある所。紫色は、ベニア下地を確認し、グラスウールの施工の可能性がある所。ピンク色のクロスハッチは、軸組の改修があり、グラスウールとポリフィルム施工がある所。水色が、軸組の改修はないが、グラスウールの施工がある所となっている。
- ・A4版の資料のほうだが、耐震改修及び保存改修にあたり、保存レベルの基本方針を初期の段階ということで考えさせていただいている。基本的には昨年度までであった、基本計画の内容の歴史的価値、建築的価値、外観、内観、設計プロポーザル時の発注要件、将来のための登録有形文化財の基準というものも踏まえ、耐震改修と歴史的価値等を両立させるため、保存レベルを3段階に分類した。これらは、角委員の『旧北海道拓殖銀行大泊支店の改修方法の検討』を参考に参照させていただき、保存レベルの分類をした。
- ・保存レベル2については、歴史的・建築的価値が高く、その保存が重要な部分であり、当時の材料や工法を用いて復元し保存することを原則としたレベルとする。現在使われていない工法の場合は、その復元も試みるレベルで、一番レベルの高い部位となっている。
- ・保存レベル1は、建設当時の状態を維持・復元するが、現行の材料・工法も採用可能とする。基本的に、オリジナルの部分を対象とする。
- ・保存レベル0は、基本的な形態・考え方は、保存・復元を行うが、材料・工法については必ずしも建設当初のものでなくてもよいこととする。耐震補強や新たな要求に応じて、保存・復元を行わない方法も可能とする。

- ・以上、3つのレベルに設定させていただいた。本施設においては、外観の保存を最優先ということであり、耐震補強で内壁面を最大限の方向で考えるが、不足する場合は外観の1/3を超えない範囲で保存レベルの再設定を行う。
- ・外壁の場合、保存レベル2が、外壁モルタル刷毛引塗装、玄関入口のなぐり仕上げの柱及び腰壁、外壁ドイツ下見板張、筋交いのハーフティンバー・モチーフ、花台窓、トイレ等の副次翼屋、便所の掃き出し窓。
- ・保存レベル1については、屋根部分と、北側の煙突。
- ・保存レベル0は、基礎、南側外壁の1階部分。これはラスモルタルだが、創建時は下見板張と考えられるため、下見板張に変更し、保存レベル0とした。南側煙突については、平成11年に既存煙突を解体して再構築していることが分かったため、解体撤去をご提案したいと考えているので、ご判断・ご検討いただければと思う。北側1階下屋については、増築された可能性が非常に高いため、創建時を考えると撤去の可能性もあるが、創建時の明確な資料が存在していないため判断がついておらず、この点についてもご判断・ご検討いただければと思う。
- ・内観の保存レベルについては、クラブハウスとして建てられた空間構成を保存するというところで、電話室、応接室、メイン階段、裏手のサービス階段を設定している。内部については活用計画とも関わってくるため、その中での保存レベルの設定ということが必要になると思っている。
- ・保存レベルの2は、電話室、2階応接間、メイン階段、1階のサービス階段、1階及び2階トイレの掃き出し窓である。その他に各室別に、材料、オリジナルと思われる所、改修されていると思われる所で、一度レベル1から0を設定させていただいている。ただし、1・2階便所と手洗いについては、改修ありきとなっているが、保存レベルについては再度要検討した上で、設定を行っていきたいと思っている。改修内容に応じて、保存レベル0~2についてはその都度検討し直しながら最終段階に持っていきたいと思っている。
- ・「7. その他」に書いてあるが、温熱環境対策については、内側に樹脂製の窓等の検討を行っていくことと、断熱気密に関しては、逆に部分的に行ってしまうと建物に悪影響を及ぼすということもある。活用のプランと耐震補強を組み合わせる中で、こういった温熱環境対策が良いのかについては、今後の中で考えていきたいと思っている。
- ・本資料での記載はないが付け加えさせていただくと、調査をしていく中で、1階の天井裏で火災の跡が判明した。天井内の梁や柱の一部が炭化している。これについては、札幌市に照会いただき調べてもらったところ、札幌市に施設が移管される前の昭和30年代に消防の出動記録があり、その時火災があったものであろうと判明している。それに関しても、これから説明する耐震改修の中で、梁の炭化部分については、現在の断面より小さくするかたちでの確認を行っていきたいと思っている。

- ・「旧三菱鉱業寮 耐震補強方針について」だが、悪い所では0.4で、やはりかなり耐力が小さくなっており、崩壊する可能性も高いと再確認している。その結果、「(2) 基礎の補強について」は、青と赤で書いてある。青の所が新たに基礎を増設する部分である。赤の部分が既存基礎に補強する箇所になっている。その下にある基礎イメージ図は、増設の基礎と、既存の基礎に補強するイメージとして記載している。
- ・上部構造の補強については、前述の通り外観重視なので、基本的には外観の保存を優先して、内部で耐震壁を補強していくこととなっている。
- ・積雪荷重については、現在垂直積雪荷重は140cmだが、雪下ろしの習慣等ある場合の低減があるのと、屋根がカラー鉄板ということを考えて、積雪荷重を100cmと設定させていただいている。
- ・耐力壁の仕様については、「耐力壁仕様」と「非耐力壁仕様」という2種類に分けて補強方法を考えている。耐力壁仕様は四周を全て接合しなければならないが、非耐力壁仕様については、柱の部分だけのため、その両方を踏まえて考えたいと思っている。
- ・真壁と大壁が両方あるが、それぞれに応じて補強していきたい。
- ・横架材については、金物で接合していく。
- ・小屋組みの補強については、雲筋交等によって補強していく。
- ・床面の剛性については、火打ち金物等を屋根面と2階の桁のほうで補強し、1階床面は構造用合板によって固めたいと考えている。
- ・1階北面下屋部分の水平剛性については小屋裏での補強を考えている。
- ・火災範囲については、先ほど簡単にご説明させていただいた。
- ・「(4) 上部構造補強位置案」では、1階と2階の平面図に色をつけて記載している。1階については、展示室1の内観が保存レベル重視であり、下見板張りを一度剥がしてポリエステル繊維による補強を考えている。この後、活用計画案からご提案もあるかと思うが、そちらのプランと整合性を取りつつ、今回の補強案の設定にさせていただいている。柱が取れる所と取れない所、絶対取れない所、梁の補強が必要な場所がある。赤色が補強の耐震耐力壁である。青色が、非耐力壁仕様で考えている。黄色は、合板による非耐力壁仕様で、カフェに利用される所はなるべく柱や壁を無くす形で検討している。ただ一部柱が残っているためその扱いを検討中である。警備室、予備室についても耐力壁の補強が必要である。
- ・2階については、12.5帖の和室の保存レベルが高いため、ここを損なわないかたちでの補強方法ということで、内側から和室20帖と16帖、また物入れの所に耐力壁を入れて耐震性を上げる。
- ・耐力壁については、(財)日本建築防災協会の制度で評価を取得している工法の中から選択し、ポリエステル繊維を利用した壁の補強によって剛性を高めることを考えている。その結果、現在1.0をクリアできる状態になっている。

- ・次に現況を調査した結果の構造図は、現在の基礎伏図、1階床伏図、2階床伏図、小屋伏図、屋根伏図である。ピンク色の所は、調査不可能な箇所なので想定になっている。

(小澤委員長)

- ・断熱や壁面仕様等含む最新の現況調査、保存レベルの設定と方針、耐震補強方針についてご報告いただいたが、何かご質問やご意見あれば。

(平井副委員長)

- ・立面図の外壁調査凡例の1番上に「防湿シート」、上から5番目に「ポリフィルム」とあるが、これは本当に防湿シートなのか、それとも透湿防水シートなのか。全く逆の意味があるので、記載の通りであれば構わないが、もしも裏側に防湿シートが貼ってあるのなら、改修の際に撤去したほうが安全かもしれないので、ここだけ間違いがないかご確認をいただきたい。
- ・「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用基本設計・実施設計 保存レベルの設定基本方針（旧三菱鉱業寮）」の「7. その他」に、「温熱環境対策として内側に樹脂製内窓追加を検討する」とあるが、この辺りの保存との関わりで、完全固定する、あるいは後で考えが変わった時に撤去できるような仕様で、例えば木ねじ等で留めておき、後で外せば元に戻るといった方法もできるのか確認していただきたい。
- ・「旧三菱鉱業寮 耐震補強方針について」にある、「(3) 上部構造の補強方針について」の「積雪荷重について」で、計算のベースを積雪100にしたところで、「屋根はカラー鉄板葺きであり、比較的屋根面に降雪した雪が積みあがる仕上げではないこと」と書いてあるので、これで全然構わないと思う。この屋根の低減係数というのは、実態に合わない低減の低さであり、もっと落とせると思うが、一応札幌市で規定されているので、『カラー鉄板の塗装等は雪が比較的落ちやすい状態であり、将来的にメンテナンスもきちんとやるので、140でなく100でいい』といった説明がしやすくなるように、ここだけは明確に書いていただいたほうが良いと思う。
- ・「耐力壁仕様及び非耐力壁仕様について」だが、これは非耐力壁仕様ではなく準耐力壁仕様の間違いだと思うので、直していただきたい。
- ・「床面の剛性について」だが、これは日本建築防災協会のものでやっていると思う。普通は基準法レベルで、例えば火打ち金物が認定されているが、施工の仕方がやりやすければこれで問題ないが、実際の性能からすれば、こういった火打ち金物を使用せずに、上の胴差しと梁に合板を打ったほうが効くと分かっている。いずれ歴史的建造物として登録有形的なものを考えていくとなった時に、これが重要文化財だと、建防協で想定しているようなものとは考え方が全然違い、基準法適用外であるから、大学の実験や研究所の実験成果、建築学会の論文等を引用して、性能が証明できているようなもので、技術的に正しいと確認できるものであれば、認定等と関係ないものも使用することが可能である。建防協には載っていないような様々な仕様が沢山あると思う。札幌市としても、この機会にできればお考えいただけた

らと思う。構造的には合理的だが、今あるハンドブックやマニュアルに書いていないことはいけないことではなく、やっている委員会も全て分かっているわけではなく、分かったところを載せているだけ。本質的な理念は排除するということではないと思う。札幌市の建築の立場で、証明できるものは使えたと、今後同じようなものが出てきた時に、柔軟に対応ができるのではないかと思う。後にそういった事例が出てきた場合、駄目であったとしてもすぐNOというよりは、相談していただいて、一度話題に出していただいたほうが将来的にいいかと思う。

- ・「(4) 上部構造補強位置案」についても同じことが言える。凡例に「構造用合板による補強」や「ポリエステル繊維による補強」とあるが、構造用合板で在来工法用のN50@150ピッチの川の字打ちということで想定されている。ツーバイフォー仕様だと、CN50@100ピッチで基準耐力が高くなっている。これは在来ベースで行うため、厳密に法令解釈すると使えないということだが、構造の理屈からいえば、どちらも同じ木材で、同じピッチで同じ釘を打ち、同じ合板を使えば、同じ耐力が出ることは明らかである。一般の建物ではない建築物の改修をする時に、そういうものを適応することは本当に不可なのかを考えていくと、使えるものが色々出てくると思う。市の建築担当の方が大変だとは思いますが、せっかくの機会なので、最初から否ということではなく、今後何かする時の幅が広がるよう、こういうことも考えていただければありがたい。

(小澤委員長)

- ・この方針もあくまで案ということなので、今アドバイスいただいた内容で何を採用していくのか話し合いながら、最終的には報告書のような形でまとまるのか。

(事務局)

- ・次回以降の委員会で、反映したものをらせていただく。

(小澤委員長)

- ・今回、歴史的建造物を丁寧に検証し、公開の場で議論させていただいて、このプロセスや話し合いの内容自体が今後の保存改修のモデルとなるのではないかと考えている。この場限りというのではなく、どういう判断でどういう決定をしたかということ、今後も引き継いでいけるように、何かしら記録に残していただけたらと思う。

(池ノ上委員)

- ・基本方針が示されており、登録文化財として保存改修することがテーマのひとつと思うが、そもそも大方針は何か。決まっているのであれば教えてほしい。創建時に戻すということが大方針なのか、あるいはこれまでの改修履歴のようなものもある程度ひとつの価値として認めていくのか、その中でも線引きをしていくのか。例えば、新建材を使用し完全に工法が変わっているような所は不可で、それ以前に改修されているものは可とするのか、といった基準が見えない。その辺が整理できると、記載の各レベルの決め方や、耐震の補強の仕方等も、もう少し柔軟性を持って検討できるかと思う。

- ・登録文化財ということだけを極端に見てしまえば、文化庁としては望見できる範囲というのを求めているだけなので、その範囲だけ守れば、今回の耐震補強や内部などに関しては極端に言えば改修ができるということになる。今回はこういう委員会で、その辺をどう判断しているのか確認させてほしい。
- ・先ほど平井先生がおっしゃった耐震改修に関しても、建築基準法のようなところを目指してやるのかどうなのか。公開家屋にするというところで、求められる消防法や基準法はあるかもしれないが、登録文化財というところで、ある程度その辺の基準も柔軟に考えることもできると思う。その基準をもう少しはつきりさせたほうがいいのではないかな。
- ・今回耐震の診断をしていただいて、建物全体として2階側の耐力が弱く倒壊する可能性があるという基準で耐震の様々な提案を出していただいているが、耐震改修したからといって大地震で必ずしも崩れないものではなく、極端にいうと突然崩れず数時間は耐えられるというところが目的になるかと思うので、これから活用を考える時には、利用者が滞在する頻度や滞在時間の長い場所を、いかに逃げ切るまでシェルター的に守るか、という考え方も必要かと思う。これからカフェスペースとなる予定の展示室2やインフォメーションスペースとして使われる予定の1階・2階の部屋など、重点的に耐震機能をあげなければならない滞在頻度の高くなりそうな場所についてどう考えているかをお聞きしたい。

(小澤委員長)

- ・改修の経歴等をどう評価していくのか、角先生がお詳しいかと思うが。

(角委員)

- ・たぶん、創建時の姿に戻そうということではなかったと思う。当然、途中途中で様々な使い方をしているので、今の文化財の考え方としては、創建時のオリジナルの姿に戻すということとはあまり要求されていない。それよりは、そこまでの経てきた時間というものを大事にしようということだが、明らかに近年手を入れられていたり、オリジナルの姿を壊しているものについては撤去したほうがいいかもしれないというくらいだった。大方針がここできちっと語られていたかについては、登録ができるくらいの厳しさをやりたいが、指定にしてしまうと中が使えないので、というようなかたちだった。
- ・個人的には、将来登録であっても、昭和10年代のものは、これから50年後、100年後はそれなりに文化財的な価値を持つだろうと思っているので、この段階での活用時の改修にしても、壊さないような形のほうがいいだろうとはずっと思っている。その辺はコンセンサスを得られているかは分からないが、この委員会の中でもなんとなくそう捉えられているのではないかな。ただ、文面として書かれているわけではない。

(小澤委員長)

- ・登録にしていきたいということは、最初からずっと話しており、その範囲の中でこの線と白黒はつきりもつけられないので、様々な経験等を踏まえながらの考え方もあった。

(池ノ上委員)

- ・例えば、将来の指定に耐えられるぐらいのものを目指す、プロセスとして登録がある、ということでも良いと思う。指定にした建築物では豊平館の例もあり、中を使えないということはないと思う。
- ・今回、南側の煙突を撤去するということが出ているが、それをどう考えるか。創建当初はなかったのだろうが、その後つくられ、現在のデザインとしてはマッチしているのかしていないのかという判断などもしていかなければならないと思う。

(角委員)

- ・これはとても難しいところで、煙突は現在使われていないものである。しかも、RCでレンガを外側に貼り付けているようなので、撤去した後のその部分のデザインが逆に創作になってしまうかもしれない。大前提としてこれを撤去すると考えるのではなく、撤去する場合・しない場合の比較が必要になってくるのかもしれない。
- ・同じようなことで、トイレのタイル等が改修済と書いてあるが、改修時期が明らかでない。もしかすると改修ではなく、当初から腰の部分のタイルは貼られているのではないかとも思っている。あの大きさの白いタイルというのはある。今回トイレは全面的に改修してしまうが、それらを全て撤去して改修する方法もあれば、残してその外側にもう一層やって、将来文化財になる時に、それを取り外せば元の姿が出てくるようにするかで随分違ってくる。
- ・保存レベル2は良いが、レベル1や0の項目では、2階トイレ部分は検討が必要と書かれてはいるのに1階は書かれていない。もし、将来我々の現時点での決定が誤ったと指摘されたとしても、例えば「角先生の感覚でこうやった」というのでは全く説得力がない。「この検討をした結果こうなった」というものが報告書内にきちんと書かれていたほうが、後の人達が評価をするのにもいいかと思う。
- ・例えば、スペースが取れずタイルを全部撤去することになった場合、最悪でもタイルの部品だけは残しておくという事例もあるかもしれない。その時々できちんと検討したのだという事実を積み重ねていったほうがいい。

(池ノ上委員)

- ・温熱環境対策は自宅でもしており、この樹脂製内窓というものを一部入れたのだが、木のサッシュで作り直しペアガラスを入れたところと比べると、見え方が全然違うため、結構後悔している。予算の問題などもあると思うが、木でつくることができるなら、熱の伝導性は多少劣っていても樹脂製を使うよりかはましかと思う。
- ・函館の近くにある知内町の役場に行くと、木の間にゴムを使うなどしたより機密性の高いペアガラスのサッシュを使っているところもある。
- ・今回新たにつくるが、どうマッチングさせていくのか。居住環境を高めるところも、もう少しできると良いと思う。

(角委員)

- ・恒久的な内側の二重窓にする場合もあるし、冬場だけマグネットなどでしっかり填まるようなものもあり得るかもしれない。この際、今後様々な歴史的建造物に使えるパーツのようなものが開発できるといいと思う。

(平井副委員長)

- ・先ほどの保存レベルも一緒だが、できれば選択肢として簡条書きのものはできるだけつくっておく。そして、今回は残念ながら採用できなかったが次回予算的にも余裕がある時はこういう工法のほうがいいねということ、次に参考になるように残しておくことが一番重要であると思う。

(小澤委員長)

- ・歴史的価値の検証についてだが、昨年か一昨年に角先生のご助言の下、事務局のほうで歴史的価値を一度まとめている。あの時点で調査をして、価値があると思われることや、検証できることは検証した。それをベースに様々な判断が積み重なり、最終的に報告書となると思う。昨年度までの資料ももう一度出しながら、内容を充実させつつ進めていただきたい。

(角委員)

- ・たぶん今回のレベルについても、前回のものをベースにしながらお考えになられていると思うが、実際に活用ということになれば、これではできないという部分もある。そういった部分を第三者から見てもクリアにしたほうが、きっと後で役に立つ。ここで検討したことに意味があるし、確認にもなる。実務者として設計されている方も、本当はやりたいことがあったのに、予算の関係でできなかったこともあるかもしれないし、技術的にできないものもあるかもしれない。それがわかるような状態になっていると、札幌市や関わった人全員の財産になる。

(小澤委員長)

- ・歴史的価値の部分と、構造的な話をきっちり分けて明示していくということできたらと思う。
- ・「守る」という視点での耐震補強も必要ではないかというご指摘もあったが。

(北電総合設計)

- ・耐震補強の手法については、人が安全に逃げるまでは倒壊しないということは当然であるが、滞在時間が長いのでそこをより強固にという視点では今はしていない。

(小澤委員長)

- ・規模の大きなものや階層の高いものでは、甚大な被害が起きない壊れ方の段階を設定するかどうか、木造二階建てでこのくらいの規模のものに、部分的な壊れ方を想定するものなのか。あるいは全体としてという考え方なのか。

(北電総合設計)

- ・一部屋であれば、柱が倒壊してその部分が崩壊することもあるが、この規模の木造であれば部分的に潰れることはまずないと考えられる。全体でカバーできていれば、使用頻度の高い場所だけが壊れるということはないと考えられる。

(池ノ上委員)

- ・耐力壁などをしっかり、現在の予備室や警備室に入れた時に、明らかに南側の面が弱い。全体的には大きな建物ではないので崩れる方向はこっちなのか。

(北電総合設計)

- ・大きく揺れればどちらか片方に傾くことはあるかもしれない。崩れるとすれば弱い方向に崩れていくとは思いますが、崩れるような地震であれば他の部分も崩れると思う。

(池ノ上委員)

- ・好きな工法ではないが、江戸東京たても園などでは外側に大きな鉄の支柱を立てて、外からそちら側に倒れないように吊ったり、木で太い格子をつくって南側に入れたりなどしている。

(北電総合設計)

- ・外側に様々な補強をしている例もあるが、外観重視という話だったので、特にそういったものは考えていない。

(平井副委員長)

- ・一番大きいのはどこまでやるのかだが、床方面を固めるのが圧倒的である。先ほど火打ちの話もしたが、火打ちでは足りず沢山の耐力壁を入れにくい場合には、床方面であれば様々な工法がある。一番安いものでは鉄筋のグレースで梁の間に入れたり、合板パネルをそこに押し込んだりもする。そうすることで、どこかが浮いていても全体として倒れず、床面として持つということがあり、これが一番効果的なやり方である。壁の耐力を上回る床の補強をしておくことで、倒壊を防ぐことができる。床が軟らかいとバラバラになり傾いて一箇所だけ崩れてしまったことがある。
- ・既存の木ずり壁や漆喰壁を補強したとして、最初に力がかかるのは漆喰壁や土壁である。これらは剛性が一番高いがクラックが入ってくるので、次に補強した合板耐力壁に力が流れる。最後にそれらの釘がはじけると、木ずり壁と柱の仕口に行く。今回、建防協のもので木ずり等は見ないのは結構だが、構造計画をたてる時に今回のカウントに入れたい、1.0を満たすにはそれを入れたい、入れないがどこの位置に木ずりが入っているかの情報があると、それで囲まれている所は10分の1ラジアンまで傾いても、ぱっさりいかず、確実に効果がある。その代わりに、柱の仕口を金物でバラバラにならないように入れるという前提付きであるが、こうすると実際には倒壊しない。こういう法令・施工例・告示はかなり割り切ってやっているから、イエス・ノー的な判断をしているが、実際には数値評価はしにくいから入れないだけで、効果があることは携わっている人には分かっている。裏できちんとそうしたものもつ

くっておいて、最終的にはそういったものを入れることは効果があるということを記録に残しておいたほうがいいと思う。

(小澤委員長)

- ・保存活用の話の中で、カフェをどうしていきたいか、そこで開放性の問題等が必ず出てくる。法の担保はもちろんのこと、プラスアルファの技術でどれだけ安全性を担保していくのか非常に知恵が要るし、取り組む意義があるのではないかと思う。

(角委員)

- ・南側の RC の煙突を構造的にサポートできるシステムに変えることは可能か？

(平井副委員長)

- ・鉄筋がきちんと入っていれば非常に剛性が高いので、先ほど出た土壁の例のように、その支柱に最初の力が入る。

(角委員)

- ・撤去することばかり考えていたが、逆に元々あったものを上手に利用することもできる。

(平井副委員長)

- ・それに耐えられるだけの基礎補強ができるかどうかである。片持ちで浮くことになるので、転倒防止のために、今ある基礎だけでは足りなくなる。今は下に下がることだけを考えて下をつくっていると思うので、水平に来て浮き上がらないように、ごついフーチングを入れて、鉄筋で繋げられれば、土を掘る作業はお金も余計にかかるのでなかなかできないが、効果としては確実にあると思う。

(角委員)

- ・南側が弱い弱いと言っているが、逆にそれを上手に利用するというのもあるかなと思う。

(平井副委員長)

- ・煙突にきちんと配筋されて鉄筋の柱が立っているとすれば、木造のちょっとした骨組みの所はかなり軟らかいので、何 m 分かはそれ一個で持つことが可能だと思う。

(北電総合設計)

- ・煙突は一応配筋されているようなのだが、今回接合部分にどこまで力が伝わるかは何とも言えない。確かに、倒壊ということでは、建っているだけでもこちら側にはなかなか倒れてこないようにはなると思う。

(平井委員長)

- ・煙突と建物の木部分は、L 型金物等で繋ぐというやり方などがある。技術的にややレベルの高い話をすると、完全に固定をせず、ルーズホールで締めておく。加わる力が小さい時には、煙突には木から力が流れないが、動き出し 2~3mm 傾くと、そこに引っかかるという方法がある。ただ、それを言い出すと、様々な設計をしなければならなくなる。

(角委員)

- ・撤去するのにお金がかかるならば、何かプラスしてというのもありかという思い付きだった。

(小澤委員長)

- ・おそらく色々なアイデアが出てくるかと思うが、こういった先進的な部分にもできるだけ取り組んでいけたら目線や視点も変る。こういったお話を継続させながら進めていただきたいと思う。

4) 活用方針素案について (資料-5)

(ノーザンクロス)

- ・活用方針素案ということで、A3版の資料を説明させていただく。非常にボリュームがあるため、若干割愛させていただくがご了承願いたい。
- ・表紙右側に、前回の振り返りと宿題についてまとめている。
- ・前は大まかなゾーニングが確認され、カフェレストランの位置と規模が1階南側の100平米弱程度となった。
- ・それに基づき、ユニバーサルトイレをつくることとなったが、トイレの数が足りず増設が必要だろうということだった。
- ・夜間も使用することとなった。
- ・インフォメーションスペースについて1階だけ位置づけていたが、トイレの増設によりスペースが足りなくなるため、1階と2階を上手く使うこととなった。
- ・公園・建築設計との調整を要する内容としては、ファクトリーからの人の流れが非常に重要なのでアクセスの改善をする。
- ・カフェレストランについては、外部を取り込みながら使っていく。
- ・東側にスロープをつけバリアフリー入口をつくり、そこにまわるバリアフリー園路を設定する。
- ・宿題となっていたものとしては、活用を考えるのは良いが、もう一度この建物の価値を振り返るべきという話があった。また、今後どういう人達が管理をしていくのかという活用主体を、もう少し具体的に捉えていく必要があるということもあった。
- ・インフォメーションスペース、カフェ・レストランについては、もう少しデザインに踏み込んで考える必要があるということだった。
- ・また、入館料の話は今後どうするのかという話もあった。
- ・2ページ目だが、建物の価値を捉え直して活用を考えようという話があったため、再度振り返った。これは過去の委員会でもかなり議論されてきたことをもう一度再整理するかたちになっている。前回の委員会でもご議論を踏まえ、歴史、建築、環境という3つの視点で整理している。環境というテーマは、今公園と一体となり地域住民によってオアシス的に使われている今の価値である。
- ・歴史的価値としては、永山武四郎という偉人が住んでいた邸宅としての価値という記憶があるが、今まで少し発信が足りなかったこととしては、北海道の産業発展をリードした三菱鉦

業の寮としての価値をもう一度踏まえて、それをプラスしながら歴史的価値としていく。また、札幌の産業の発展を支えたまちの歴史があり、道庁という行政中心から開拓使通で結ばれた場所にあるこの土地の持つ意味や、東に行くと、苗穂の産業遺産群があるという、まちの歴史との絡みの中で、この場所の意味を伝えていくことが重要だと考えている。

- 建築的価値の中では、意匠についてはとても重要な場所があるという整理が過去にされている。この中でも特に、そういった価値を保存し空間自体を体験していくことが最も重要だと考えている。空間自体を隠したものの、例えば1階のガラスケースのようなものが結構あるので、そういうものを整理する。2階の丸窓の部屋も物入れになっており、なかなかオープンになっていないが、価値を体験するには、そういったものをオープンにしていくことが必要である。また、そういったものをわかりやすく伝える展示計画の見直しも必要である。旧永山武四郎邸は、原則観覧施設として使用するが、今まで東側の外観に対しての意識が薄かったため、そちら側の魅力を伝えていく工夫が必要である。旧三菱鋳業寮についても、なるべく外観を保存しながら外構部分とセットで活用する。
- 3ページ目では、この三菱鋳業寮が増築された後に、空間がどう活用され使われてきたのか、過去の履歴を整理し掲載した。ここが増築された時も、やはり永山邸は格式の高い特別な場所として使われていた。その意味を踏まえて使っていく必要があるし、過去に使われていく中で変更されている部分もあるので、新しいものを創造する上ではフレキシブルに使う部分も必要であると思う。2階に宿泊機能として、多少間仕切りは変っているが和室の設えがそのまま残っているので、その空間の記憶を継承する必要がある。そこは今、市民利用でも継続されて使用されている部分にも繋がると思う。
- 環境的価値という側面では、ランドスケープと地域のコミュニティ利用という大きな視点の中で、この公園と一体となって、庭園部分は昔の樹木が多く残り育っているものを含めると、ランドスケープとしての価値を有していると考えられるため、樹木の生育環境に充分配慮した活用が必要である。また、小さな子供たちにとって、柵があることで非常に安全な遊び場になっていることも、非常に重要な価値になっていると思う。
- 4ページ目は、その価値という視点に加え、建物の持っている課題についても整理した。ここを使い続け守っていく上で、耐震改修しなければならない場所があり、そういうことを踏まえて活用しなければならない。掲載の図では、特に赤色の破線で囲った場所は、上の重量を支える大切な場所であるにもかかわらず、Y方向の壁が過去に取り払われてしまっているため、柱・壁・梁の部分にかなり配慮したデザインにすることが求められている。
- 外構状況と課題としては、ファクトリーからは建物が何も見えない状況をどういうふうに変更していくかという視認性の話や、バリアフリー動線のための外構の改修・改善もあった。また、色々な方向からの建物への認知度を上げるためのサイン誘導計画が求められている状況である。

- ・そういったことを、活用方針として、価値と課題がどのような活用の考え方に基づいて、それぞれの活用プログラムになっていくのかを示したものが、5 ページ目である。
- ・価値の3点からもう一度整理すると、創建時・クラブハウス時代・現在という3つの時代にわたって、価値を有していることを、どうやって活用の中で捉えていくかを示している。
- ・課題では、保護・安全性、アクセス性、バリアフリーの観点から考え方を整理してまとめている。施設の機能構成については、旧永山武四郎邸を原則観覧施設として保存することに加え、旧三菱鉱業寮を基本計画で掲げられている3つの「インフォメーションスペース」「カフェ・レストラン」「多目的スペース」の三位一体として活用を考えてつくりあげていく。
- ・次の6 ページ目の活用方針図だが、1階メインのエントランスは三菱鉱業寮の玄関である。左下に冬の玄関の写真を掲載しているが、落雪が非常にあり、雪が溜まり除排雪も困難なためここを冬に開放するのは難しく、冬期間については永山武四郎邸のほうを通過して現在と同じように使い分ける。
- ・玄関から入ったら人の顔が見えることが重要なので、受付スペースがある。そこにこれからはボランティアが常駐するような一席も設け、場合によってはそこから館内をご案内するということもする。
- ・玄関に近い現在の展示室にインフォメーションスペースがあるが、1階2階の使い分けが必要という話の中では、ここでまず基本的な情報を知ってもらいイントロダクション的に使ってもらおう。トイレの新設箇所と管理室があり、北側にサービス動線と書いてあるが、先ほどのご説明でこれは後からつけられたとあったが、活用側からいくとこれを上手く裏動線として使い、トイレにアプローチする時や管理人室に入る時もそちらから入るようにすると、廊下側のウォールが連続した面として使えると思う。このインフォメーションスペースを補完するようなギャラリーウォールとして使うことも、館内の回遊性を逆に上げられるのではないかと思う。
- ・カフェ・レストランについては、メインのアプローチが階段下を潜って、玄関からダイレクトに入れる構成で客席があり、奥に厨房がある。客席はテラス側に、景色を楽しむようなカウンター席があり、廊下側に色々な団体客がテーブルをくっつけて使えるような客席があることになっている。テラス席については、樹木をプロットしているが、よく見ると立派な木の中にあまり状態の良くない木もあり、この樹木を検討しなおすことで、外観をもう少し見やすくしたり、意識づけできるようなことになっている。
- ・玄関横も植栽帯だが、低木部分が雑然としてきているためその整理をしつつ、できれば建物に寄り添う場所をもう少し増やしたいので、休憩スペースとして使えるような改修も考えていけたらいいのではないかと思う。
- ・2階だが、階段をまず上ると、ロビー／ホワイエというパブリックロビーとして大きな活用空間としてのイメージを持っている。今封鎖されている物入れもオープンにすることで、丸窓越しの景色を見ることができたり、席を置くことで永山邸の屋根越しに公園のランドスケ

ープを楽しむことができる場所として、ここは建物をゆっくり楽しむ場所として使われなければならない。

- ・インフォメーションスペースの和室部分だが、ここは前回「洋室」と乱暴に書いてしまったが、やはり建物の記憶として、和室として使っていくことが一番重要だと思う。
- ・1階はパネル展示など見られるが、ここは本を読んだり、タブレットに入った情報を閲覧できるような、ここにゆっくりと場所に滞在しながら知ってもらう施設として使う。
- ・多目的スペースAからCについては和室として使うが、Cも特に縁側部分はとても気持ちの良い場所なので、レンタル利用が入っていない時には積極的にここに来てもらえるようにしたいと思っている。
- ・インフォメーションスペースとカフェ・ストランの部分は非常に重要で、この部分の具体的なデザインの話だが、7ページ目に現在の展示を写真と共に載せている。非常に内容の濃い展示がされているが、逆に言うと情報量が多い。先ほどイントロダクション的に使う話が出たが、もう少し情報をコンパクトに絞り、更にテーマ設定を明確にしていくべきだと捉えている。編集し直すこともだが、ガラスケースに入っておりめくることができない本等も、2階に持ち込むことでゆっくりと知ってもらう仕掛けが必要だと思う。
- ・8ページ目の、展示の構成としては今言ったように、これまでは1階の展示室に詰め込んでいたものを、イントロダクション的に1階のインフォメーションスペースと廊下のギャラリーウォールを使い、2階ではもっとゆっくりと深く知るといふ、大きな構成に変えたいと思っている。
- ・ダイアグラムの整理すると、まずは創建時とクラブハウス時代の歴史的建物の価値というもの、建物自体を体感することが何より重要なので、まずは滞在し、ゆっくりと佇むことのできる場所をつくるのが一番かと思うが、それを取り囲むようにギャラリーを1階に、ライブラリーを2階の和室に、更に人が介在しガイドツアーとしてボランティアが滞在する場所がある、というこの3つをインフォメーションスペースの充実として捉えていきたい。
- ・ギャラリーの内容について今は細かく触れないが、テーマをしっかりと整理して、開拓時代の話、産業発展の話、企業文化の話、この土地が持つ意味、まちの歴史の話、そして建物の建築解剖という建物の持つ意匠や工法などで構成している。
- ・ライブラリーは、和のブックカフェのような、ゆったりと居られるイメージを持っているが、ここに書棚などを置くと重量が非常にかかってしまうかもしれないので、構造の補強が必要になってくるかもしれないため、事前の協議が必要だと考える。
- ・9ページ目のカフェ・レストランについて。青色表記は活用側のポイントだが、耐震改修等あるため、構造的にも厳しい場所がある。特に先ほど小澤先生にも触れていただいた主要な部分としては、廊下側の設え方である。メインのアプローチは、玄関を入れてすぐの階段下の部分だが、こちらはオペレーションだけのことを考えると、今の扉は閉じていきたいのだが、そうした時にこの壁面はどうあるべきなのかを活用側から考えると、できれば廊下側をもう

少し明るくしたいし、開放部を設けることで建物の奥行きを感じることができると思う。場合によっては、廊下から大きな窓を通して外の景色を見ることができるとも思えないし、光を取り込むことが重要だと考えている。ただ、これまでの建物の記憶からいくと、空間の構成上は廊下からアプローチしないと、どういうふうに保存するのか。あるいは、開放部を設けないとすると、この耐震壁上の位置づけは重要なので、それが本当にクリアできるのかということを考えている。

- ・テラスの素材感のイメージだが、中と床の面を合わせようとする、大体 80cm 位上げないといけない。そうすると木のウッドデッキ状のもので軽やかにつくるべきかとも思うが、ここは非常に屋根からの雪や雨が落ちる場所なので形状を考えなければならないし、木でやるべきなのかどうか。例えば、札幌軟石のように周りの硬い素材を使ってステップで降ろし、地面に近いところでそういう設えにすることもあり得るので、この後ご検討いただきたい。
- ・1 つつけ加えたのが、既に玄関で脱いだ靴を、外のテラスへ行く時にどうするのかというものである。玄関に下足箱があり、ビニール袋に靴を入れて持ち運びこちらに置いておくのはちょっと、といった問題が発生している。そちらも検討いただきたい。
- ・10 ページ目で、活用側が設計側にあまり強く言えるところはないかもしれないが、やはりここを運営していく上でどういう空間にしたいかを整理した。活用側からいくと、特徴的な意匠や技術に加えて、時間を経ることで柱一本、木の窓枠にしても風合いを残すものがあると思うので、そういったことも丁寧に拾い上げて、時間の経過を感じさせるようなデザインにしていきたいと思う。
- ・ここに新しい機能が入ることもあるので、古いものと新しいものの素材感を対比させるようなデザインにしたい。そうすることで、古いものも逆に活きると思う。
- ・光や自然景観といった外側の環境を取り込むようなデザインとする。
- ・夜、どういうふうに魅力的に見える場所になるか。裏の外観の建物もそうであるし、併せて照明デザインが上質にこの場所を演出するものとする。
- ・重要な廊下側壁面のデザインイメージは、現状こういった立面構成をしていて、扉がついていて真壁構造になっているということだが、仮に扉が使われなくなると、例えば腰壁を残し開放部にするという発想もあるかもしれない。大胆に変えてしまっただけ開く方法もあるかもしれない。もう少し和の建築ということで、スリットや格子などを組み込んでチラチラと見せる方法もあるかもしれない。ただ、ここからアプローチしていたという記憶をどう捉えるかが重要だと思う。
- ・11 ページ目では、管理運営の考え方についてまとめている。指定管理制度で考えていきたいという話が市からもあったが、それに基づくと、通常の指定管理者の運営業務としては、受付・案内、レンタルスペースの貸出管理、建物の歴史的価値の発信をするためのインフォメーションスペースの運営、警備清掃、ボランティアガイドの運営がある。自主事業としてや

っていくことの中に、カフェ・レストランがある。展示コンテンツの充実、また、自主事業として地域の人に使ってもらえるように様々なイベントを企画していく具体案も書いてある。

- ・自主事業を行う時には様々な団体との連携が必要である。市の商工会議所の観光ボランティアが、この場所を拠点にする可能性もあると言っている。また、地域の子育てサークル、光のアートを行っている開拓使プロジェクトといった方々や、北海道遺産協議会からはここを遺産として認定されていることなどから、様々な方との連携が必要である。運営協議会は、指定管理者が必ず設置することになるかと思うが、ここに地域住民や市民の方、専門家の方々に入ってもらって、指定管理者にアドバイスや、やるべきことの提言をもらいながら運営していく必要があると思う。

- ・入館料について。現状は無料であるが、今後も地域の人達に気軽に使ってもらい、地域のコミュニティの場としてなっていくような使い方をしていくことを考慮しながら、リニューアル後に入館料をどうしていくのか検討していきたい。これは、市の内部でも今後協議が必要である。

- ・トータルブランディングが必要ということで、例えば今、正式名称で「旧永山武四郎邸及び旧三菱鋳業寮」という長い名前がついているが、これを市民の皆さんが本当にそう呼ぶかというところではないと思うので、何か分かりやすいネーミングが必要だし、コミュニケーションの力が強いデザインや、グッズの展開等をトータルで考えていくことが必要である。指定管理者を選ぶときにも、そういったところを考えられるか評価していくことが重要だと思う。

- ・建物単体で考えるのではなく公園と一体的だし、隣接するサッポロファクトリーとの連携も含めながら、活用計画を考えるべきである。

- ・ネーミングやロゴデザインの話をしたが、回覧で見えていた資料に例を載せている。「永山 T」とあるが、Tはテー、邸とも読める不思議な呼び名だが、これは一例であり、そういった何かキャッチーな呼び名が必要であると思っている。それをデザイン展開していくと、記載 2 案のうち A 案のほうは、例えばこの「永山 T」のなかに、よく見ると赤い部分に三菱の菱形が散らばっているデザインになっていたり、北海道の北の漢字が隠れている。B 案のほうも、昔の生活の道具であるマッチ箱のイメージをロゴデザインすることで、古い良さプラス新しいイメージを出している。こういったことも今後活用の中では考える必要がある。

(小澤委員長)

- ・資料-5 は 6 章構成になっており、1 章・2 章は建物の価値と再整理、活用の視点について。2 章で建物の保存・保全及び、外構状況に関する課題。このあたりは今までもこの委員会で作られてきた材料であり、それを活用者の目線で再整理していただいた。それを受けて、3 章で活用方針をまとめていただいた。4 章では具体的な活用側からの提案。このあたりは、設計にかなり関わっていることかと思う。5 章で管理運営の考え方。6 章でトータルブランディングの考え方の話、ということだった。

・全体の工程を見ると、今日が10月9日の第2回検討委員会で、11月に予算要求をし、11月12月で基本設計を確定する。工程的には、やはり設計に反映させるべき内容を早めに方針を決めていくというのが一番クリティカルなことかと思う。

・特に設計に関わる部分を中心として全体的に、ご意見やお気づきの点等出していただけたらと思う。

(池ノ上委員)

・今回3つの価値ということで整理していただき非常に分かりやすくなった。それを踏まえた上で、今回の修理も含めた活用を検討しているこの取組とはなんなのかという、大コンセプトが欲しい。創建時・クラブハウス時代・現在の話が描かれていると思うが、今回の取組は外面的に言うと更に先の第4の時代であり、新たな価値を創造する取組だと思う。どういう価値を創造しようとしているのかというところを、見つけ出して掲げたい。それが見えてくると、先ほどの建築の話、活用の方針、耐震の優先度や工法などにも関わってくるかと思う。新しく創造する空間の提案も入っているが、その決め方、コンセプト、ガイドラインなども見えてくるかと思うので、そこを是非検討していただきたいと思う。

(小澤委員長)

・その大上位の概念をしっかりと議論して、ここに書くべきではないかと。

(池ノ上委員)

・まさに、この上のタイトルの所に書くべきではないかと。

(ノーザンクロス)

・今のお話にもあった「時代」というのは非常に大事だと思っており、3つの時代を経ての新しい価値というのは一言ではなかなか整理できていない。地域コミュニティの方に居場所として文化財を使っていくことだったり、古いものの中に新しい機能としてカフェレストランがあり、そこに目的を持って来られる方が居て、歴史を体感できるといったことが書かれているが、その価値はなんなのかという、キャッチコピーのような、メッセージ性のある言葉がまだ書けていない。これから市民の方などにこの場所を発信していく時に、分かりやすくメッセージ性の高い言葉を、次回までには用意した上で最後にまとめたい。その辺りも先生方からヒントを得られたらと思う。

(平井副委員長)

・元々この東区地域の、札幌の新しいまちづくりの開発コンセプトがあり、その中でこれをどう位置づけるかという話がスタートからあった。その札幌市のコンセプトには何と書いてあったか。

(角委員)

・カフェをつくるのが最初の目的だったわけではない。地域の人は元々永山邸を知っており地域の場所として使っているが、限定的なものである。永山邸があまり知られていないというところから、知ってもらうためには人が来ないと伝わらない、若い方も含めて来てもらう

にはカフェのようなものがあるといいのではないかと、夜の時間もあれば足を運んでくれるのではないかと、ということがあった。

- ・もうひとつは、隣に札幌ファクトリーがあるのに、そこで止まってしまっているのはもったいない。そこから足が伸ばせる場所として、こんないいものがあると認識してもらえると良いなというのもあった。
- ・始めは、ひとつのツールとしてカフェもあったほうがいいのではないかと感じだった。あくまでも地域の人を使いながら、一方では残したいというのがある。その辺が先ほどの、有料化・無料化ということに関連してくる。今は無料で貸室をしており、地域の人にとっては無料でいいのかもしれないが、もう少し広く貸し館的になってくるとすれば、多少有料でなければ電気・ガス・水道代等をどうするかということになってくるが、こういったことが現段階でははっきりとしていない。すぐに決める必要はないが、最初はあの建物を知ってもらうことが大きかった。公開されていた旧永山邸と違い、旧三菱鋳業寮はかつてクラブハウスであったので、クラブハウスのような使われ方をしていきたいというのがあり、そこから色々と展開してきたような気がする。

(小澤委員長)

- ・確かに、現状ではひっそりとあそこに建っている。一方で地域の方もそこに集って会合をされるなどニーズもあり、そういうものを繋げている高いポテンシャルがあるのではないかとと思う。

(川上委員)

- ・建物も大事だが、公園の中にあるというのがランドスケープ的にも価値が高いのではないかとと思う。そこを憩いの場として市民の人が集まり、建物の中にも入ってもらう。50年100年と経っても公園はそのまま残るので、公園がどう変化していくのかと共に、建物もどう変わっていくかが、将来的な価値に繋がっていくかと思う。

(角委員)

- ・公園の中の施設なので、永山邸の中に子供たちが出入りして宿題をしたり、中のおじさんと話をしていたり、なかなか他の歴史的な建物では見ない光景で貴重だと思った。たぶん無料だということもあると思うが、子供たちが入りやすいというのは何かしら良い魅力があるのだろうと思う。

(小澤委員長)

- ・色々なことが起こっているが、それぞれはバラバラである。この旧永山邸と旧三菱鋳業寮をやることで、ひとつにまとまった有機的な場ができるのではないかと意味で、非常に新しいチャレンジだと思う。歴史的建造物が、全く新しいかたちで貢献できるというのは、非常に先進的な取組ではないかと思う。

(ノーザンクロス)

- ・今まで挙がったご意見を整理しつつ、もう一度考えてみようと思う。

・角先生が言われたように、気軽に行けるということは、他の豊平館などとはちょっと違う視線かもしれない。地域の中で身近にあるということは、何か言葉が必要だと思う。公園と一体的という話からも、集う広場的な文化財、新しい時代の居場所となる文化財、違う文化財なのだというところが言葉で出てくるような、それに対するチャレンジなのだというところを考えた。

(小澤委員長)

・カフェが目的ではない、というのはとても大事なことと思う。永山邸・三菱鉱業寮にカフェができたというところだけを強く出すと、そこで商売を始めたのかと捉えられてしまう。ひとつのツールであるということ。カフェでなくても良い、というのが基本的な考え方である。

・事務局のほうでも、今までの色々な話題を提供していただきながらお願いしたいと思う。

(角委員)

・テラスの話で、靴を脱いで入るのだなと、靴のことを全く考えていなかった。現在は素足で入るので、外に出る時にどうするのかという話である。ウッドデッキなら、綺麗にしていればそのままでもいいかもしれないが、段差を降りるとすると、そういうわけにもいかない。また、そこに大量の雪が落ちてくるので、毎年傷みが酷く、そのメンテナンスだけで悲鳴をあげることになる。それよりは、割にハードなほうが、除雪時も含めてやりやすいのかと思う。

(小澤委員長)

・カフェのあるエリアだけを土足にするのは難しいと思う。

(ノーザンクロス)

・今までその発想はなかった。

(角委員)

・玄関から入ってくるとすると、絶対にありえない。靴を脱いで持って、また降りて、とするのであれば、カフェエリアへ出る時に履いてもらえるよう、専用のおしゃれな履物を含めて提供すれば良いのではないか。

(川上委員)

・京都でお茶を飲んだ際は、茶室へ行くために別の履物が用意されており、それに履き替えて茶室に向かった。その洋風版というような感じではどうか。

(平井副委員長)

・今から基本コンセプトを変えるのは大変だと思う。ポーチ側から直接、管理室・更衣室の中に動線があって、そちらに行きたい人は土足のまま流れるとなると、今までやっていた設計が抜本から変わってしまうので、この時点でそれは難しいと思う。

(ノーザンクロス)

・サービスによってソフト面で解決する方法もある。

(平井副委員長)

- ・更衣室辺りで、一旦土足で入って、今の動線が違って行って、カフェに入る時にはそこで履き替えて、テラスに出たい時には下足箱のような所を通して又動けるということであれば、ここで二通りに行けるかも知れないが、根本的に考え直さなければならない。

(角委員)

- ・例えば、外を歩いている時に、ちょっとここでお茶を飲みたいという人が庭側からアプローチした時は、向こうからまわってくださいというのか、そのまま入るのかということもある。公園と一体化している施設であるとする、外側からアプローチをする人もいないわけではない。ソフトで色々と捌けるとは思うが、そういうことも条件としては考えておかないといけない。

(ノーザンクロス)

- ・公園の中のテラスという位置づけが本当にこの場所でいいのかと検討したが、基本的には中に来られたお客さんが出る場所としてデザインしたほうが、まとまりやすいかと思う。
- ・少しレベルを変えてテラスがあるということで、ここからは行けないのだなと思わせるような設えかと思っていた。

(角委員)

- ・その辺は割りきり方があると思う。あまり動線を増やすと、そのたびにまた人を配置しないとならず、ややこしくなると思ったので。基本的には、先ほども言ったが、建物に付随したアクションとして外に出るといふうに考えたほうがよいと思う。
- ・設計者側としては、後で高さを色々と考えられると思うが。

(北電総合設計)

- ・基本的に設計側としては、大きなレイアウトの方針が固まらないと、先ほど出た耐震補強の工法論も含めて決まっていけないので、この時点での考え方でいいということであれば、それに応じた中での調整で基本プランを書いていく。

(小澤委員長)

- ・おそらく、カフェに加えて廊下側のギャラリーウォール、中廊下の扱いが問題になると思うが。

(角委員)

- ・私の考えでは、廊下側の今まである扉のどれかから入れて、後は真壁のままのほうが良いと思う。変に格子状に見せるなどすると、全くクラブ時代の環境や中廊下型のイメージが壊れてしまうのではないかと思う。また、構造的に有利であるのに、あえてそこを取り外すのは、かえって危険というかもったいないのではないかと思う。その分、席のレイアウトなども若干制約されるかもしれないが。
- ・玄関側から直接入ってくる人ももちろんいるが、今まであるドアのひとつで廊下側から入れるほうが素直かなと思う。
- ・廊下は片側だけギャラリーウォールで、もう片方も多少はギャラリーウォール的に使える。

(小澤委員長)

- ・私が見たところ、奥の階段を使い2階へ抜けて回遊できるのが大事なポイントかと思う。全く別の視点になるが、この廊下側は奥行きが広いので、少しでも開放性を高めて奥のほうに行きやすくしようというご提案なのかという気がした。中廊下でありながらも、どう雰囲気を高めていけるのか考えていければ、方策としてはありうらと思う。

(平井副委員長)

- ・テラスでの履物の話で、丁度この横にある赤いY方向の耐力壁が邪魔かどうかということが出ていたが、ここは1階なので基礎が450西側にずらして、その裏側に置くというのもあり得る。スリッパは中の椅子側から見える所に置かず大抵逆側に置くので、耐力壁はあえて残したまま左に少しずらすと、ここだけ中途半端な寸法になるかもしれないが、裏側からスリッパを置けるようになる。

(北電総合設計)

- ・私共の説明した資料にもあるが、その部分は壁が無い状態で、違う所で耐力をとることになっている。

(平井副委員長)

- ・もし目隠しが必要な場合は、ここにある状態だと気分的に楽だと思う。

(ノーザンクロス)

- ・電話室の横の扉からは、廊下からも人がアプローチできるような前提で検討したいと思うが、その他の扉まで開放することはできない。
- ・階段下の管理室に押入れとなっている部分があり、その赤く示している壁が耐震上かなり効いてくるが、この壁と残さねばならない柱によって、アプローチがかなり窮屈になってしまう。入りやすさを考えた時に、この押入れ部分の壁はどうしてもここで効かせなければならぬのかということもある。

(北電総合設計)

- ・この壁は、一番効いている壁である。旧永山邸と旧三菱鉱業寮の間の部分は緩衝帯になっているため、耐力壁を持っていくことはできない。なおかつ、展示室1との間が一番効く重要な位置になっている。

(角委員)

- ・階段下の STOCK と書いてあるところは踊り場の下だが、背が立つのか。RECEPTION&SHOP が前に出すぎているので、柱が嫌な感じである。もう少し引っ込むか、狭ければ、きっとこの柱の両方を通過できる。

(平井副委員長)

- ・階段の段数を考えると、ある程度通れるのではないかと思う。

(ノーザンクロス)

- ・この辺りの高さ情報が何かあれば。

(角委員)

- ・ここは踊り場下なので、中腰だと思われるが、普通の踊り場下よりは高いと思う。

(平井副委員長)

- ・背の高い人は少しぎりぎりで圧迫感があるかもしれないが、2,000 くらい取れば、少なくともそこに柵などを押し込むことはできるし、上手くやればそのスペースを使うことができる。
- ・1,700 くらいということなので、ギリギリまでにせず、もう少し寄せて階段 1 段分上げると、少し狭いが 1,900 くらいになる。

(角委員)

- ・もう一席できそうな気がする。

(小澤委員長)

- ・これは活用方針のアイデアなので、階段の下を含めて RECEPTION&SHOP がこの辺に欲しいということであれば、また設計の方で検討していただくということですね。

(北電総合設計)

- ・あくまで活用が決定されている方向の話なので、それが良ければ、当然実際の耐震と現況の中でどう展開していくのかという検討は私共のほうでやっていく。

(平井副委員長)

- ・今の話を聞いていて、そろそろ活用側のイメージと構造側のイメージで、打ち合わせながらやったほうが、手戻りがないかもしれない。

(小澤委員長)

- ・中廊下を守るということであれば、そういう方針で検討して欲しい。
- ・先ほど申し上げた、奥の階段を使って回遊するという案についてご意見いただきたい。
- ・その場合、中廊下で奥が暗いと見に行かないので、奥の階段の出前を開放なりして、中廊下の方を明るくて人が行きやすい状態をつくる必要があると思う。

(北電総合設計)

- ・今、車椅子用の入り口ができるので、外部の光は入ってくるかと思う。

(角委員)

- ・裏側にも出入り口があるので、たぶん今よりずっと明るいのではないかと思う。

(北電総合設計)

- ・ユニバーサル出入り口なので、車椅子利用のため扉自体が大きくなり、間口が足りないため柱を一部撤去して付け替えるかたちになる。

(小澤委員長)

- ・外観的にどうかというのも検討していただきつつ、光を入れていただくという考え方があるかと思う。

・トイレについてだが、基本的には中廊下側は、展示通りというように壁をきれいに取っておいて、耐震性も高くし、道路側の方の下屋部分からアクセスするという考えも提示いただいているが。先ほど、元々なかったものなので、取ってしまうという考えもあったかと思うが。

(角委員)

・難しいところである。この下屋はいつのものか。

(北電総合設計)

・不明である。調べていった時に、基礎が全く違うということが分かった。その下屋が増築された時期は、残っている履歴を確認しても出てこない。

(角委員)

・下屋があることの、メリット・デメリットはあるのか。

(小澤委員長)

・管理室やトイレのドアがあると、いかにも中廊下が裏動線っぽくなってしまう。特に2階に来訪者を導くなど、この壁自体が展示として有効であれば、管理室やトイレは奥を回っていただき、下屋を利用して入るのはあり得るとこの絵を見て思う。

・ただし、この下屋が著しくおかしいので、取る判断だというなら話は変わってくる。

(角委員)

・現在は中廊下からトイレに入る予定になっているのか。

(北電総合設計)

・今のようなこともあり、どちらからでも入れる。

(小澤委員長)

・例えば、下屋に頼らないということであればレイアウト上の工夫が要るが、中廊下から入った奥の離れのトイレに行く廊下があるが、こちら側から入り、管理室側は通用口の辺りを上手くやりくりし、下屋を使わないように両側から入るとするのは考えられるか。

(北電総合設計)

・考えられるが、資料-4の(4)「補強位置案」の図にある、予備室の押入れ側の壁は重要である。警備室の裏の勝手口は問題ないが、トイレに至る所の壁はとても重要である。

(平井副委員長)

・Yが足りない。

(小澤委員長)

・やはりこの長さはどうしても必要で、ちょっと短くするというわけにはいかないか。

(北電総合設計)

・現在の展示室1のほうに補強するというのはあるが、漆喰などをそのまま残したほうが良いだろうということで、予備室側のほうに設けている。どちらも無しという事はできない。

(角委員)

・下屋から回そうとすると、幅が車椅子対応としてはきついものになるのか。

(北電総合設計)

- ・そちらは車椅子用のトイレではない。

(角委員)

- ・それならば、こちらの裏側から回ったほうが綺麗だと思う。

(小澤委員長)

- ・歴史的に、この下屋は撤去すべきか。

(角委員)

- ・そこまでは強く言えないが、ただ、現状の窓のデザインの上下が合っていないために違和感がある。

(小澤委員長)

- ・例えば、この下屋部分はオリジナルと違う、と割り切ってしまうえば、全く別のデザインにするという考え方もある。中地半端に似て非なるものというのは、確かに気持ちが悪い。

(角委員)

- ・2階の一番左側の窓の幅と同じ位で、上の窓の幅よりはちょっと低い。他のデザインから比べると下手である。

(北電総合設計)

- ・違和感のあるファサードになっている。

(角委員)

- ・下屋は残すとして、アクセスを上手にして、外観は少し考える。

(北電総合設計)

- ・そういう方向でもよろしければ、トイレに行く動線として、これからの第4世代の使われ方として、ファサードも含め少し一体感のあるものにするかも含めて検討させていただく。

(角委員)

- ・ここの外観をどうするかというより、もうひとつ次元の違う話になりそう。

(小澤委員長)

- ・むしろ変に合わせるより、ここに違うものを後から付けたという方がいいのではないかと思う。

(北電総合設計)

- ・ここについては残して、トイレへのアプローチ。外観については新しい考え方で検討する。

(小澤委員長)

- ・前回から大きな違いがあるが、2階のインフォメーションスペースは和室を活用し、特に洋室化は考えていないということだった。畳に座って本を読むのも面白いと思っていた。保存活用という意味でも、和室として残されるのは好ましいと思う。

(角委員)

- ・ここはかつての宿泊施設としての原型を、かなりきちんと残しているのので、このかたちを使いながら、ここで床や低い座椅子に座するなどすれば良いと思う。本を置きだすと、重量の問題があるので、少し考えておかないといけない。

(ノーザンクロス)

- ・この下は、構造上補強できないオリジナルの壁が残っている部分なので、あまり良くない感じなのではないか。

(北電総合設計)

- ・図書館のような大きな棚でなく、小さな棚程度であれば、大丈夫だと思う。

(平井副委員長)

- ・この程度であれば、地震力の増大は気にしなくてもいい。床だけ、梁のたわみが出るかもしれないので、添え梁をするなどして、構造用合板でそこだけ床に潜り込ませれば、落とし込んで厚物合板などで長い釘を打って、面として本を置きそうな周辺だけ固めるという程度でどうか。

- ・普通の積載でも、130kg といえは相当なものである。ただ、本棚を置くとなると 130 を 180 に上げようかというくらいで、270kg というレベルまでは考えなくてもいいのではないか。地震力に関しては、他の場所は空間があり、座卓や座椅子があり、人が居るだけなので、部屋全体としてみれば標準で設計しているものより軽いはずである。どこかの壁際に本棚が並んでいても、ならし荷重からいえば、おそらくそんなに気にしなくても大丈夫である。床くらはいはなんとかなるだろう。

(ノーザンクロス)

- ・トータルプランニングについてなにかあれば。

(角委員)

- ・名称が、このままだと言いつらいと思う。せっかくの三菱鉱業寮がそんなに目立たず、永山邸だけが代表名になってしまう可能性があるのので、考える必要がある。

(川上委員)

- ・この辺りは、行政の条例の関係で正式名称はそのままとなるが、愛称などは出てくると思う。ブランディングは、これから指定管理者制度を前提としていけば、どういったかたちで指定管の中身を作り上げていくのかといった時に、大きな枠組みのひとつとして考えていく話になるかと思う。

- ・細かな話は次のステップかと思っている。

(小澤委員長)

- ・施設自体の名前を決めて、なおかつカフェとしても名前が欲しいかと思うが。

(ノーザンクロス)

- ・できた場合に、ちぐはぐにならないようなものにしたい。

(小澤委員長)

- ・そういう時に、「永山 T」というような話が出てくるのかもしれない。

5) 公園利用実態調査中間報告と今後の予定について（資料-6）

（事務局）

- ・この公園を所管している札幌市中央区土木部維持管理課の吉野が倒木被害の対応のため本日急遽欠席しているため、この公園の設計をお手伝いいただいている北海道造園設計株式会社の佐藤様のほうからご説明をお願いします。

（北海道造園設計）

- ・資料-6 についてご説明させていただく。公園は現在利用実態の調査をしている段階であり、現時点で何らかのかたちのご提案を出せる段階にはない。大きな流れとしては、「今後の予定」にあるワークショップで、その第 1 回目が明日からスタートする。第 2 回ワークショップ辺りで、地域にお住まいの方々や利用者の方々からお話を伺いながら、こちらからの提案を一旦行いたい。その 11 月 14 日に向けて、現在利用実態を把握しようというところに集中して作業を行っている。
- ・アンケートは春・夏・秋と公園に張り付き調査を行うが、現時点での春と夏の結果についてのグラフを記載している。
- ・その他同時に進めている調査では、地元の市立中央小学校の児童 600 人に対するアンケートを実施している。また、子育てサロン参加者、学童保育へも併せてヒアリングを行っている。
- ・一旦まとまった、現地での聞き取り調査のサンプル数は 170 あった。利用年齢層の半数近くは 30 代という比較的若い利用者だった。内訳では、この地域は近年、若いファミリー層の居住が増えていることもあり、子育て中の子連れのお母さん達がよく訪れている。また、周辺で働いている方が昼休みに永山記念公園で一息つくなど、働き盛りの方も訪れている。次に多い年齢層は、60 代以上のシニア世代である。こちらの方々は、主に早朝の散歩などに訪れている。
- ・どういった場所から来られているかということ、170 人中 110 人は中央区からだが、区外・市外・道外や、海外から訪れている人も居た。あくまで我々が聞き取った人数が 170 人で、全体の利用者ではないが、傾向としては約 3 分の 1 の方が中央区外から訪れていた。
- ・公園の利用頻度については、毎日来るという方が 60 人で、マンションにお住まいの方々がペットの散歩などに来るといったことだった。週に数回来る方もおり、日常的に利用されている方が半分位ということが分かる。
- ・公園利用の目的としては、長居する方は比較的少ない公園である。休憩目的や、幼児を連れてきたお母さん達が 15~20 分程度遊ばせるために滞在している。他に主だったものでは、散歩が 40 人、ファクトリーからと立ち寄りに寄る通過が合わせて 54 人、ペットが 26 人だった。
- ・永山記念公園の特徴として、中央区は元々公園が非常に少ない地域であり、札幌市全体の公園の 1 人当たりの平均面積は 4 平米弱あるが、中央区の特にこの地域は一人当たり 1 平米に

も満たないため、極めて緑が貴重とされている地域である。そのため緑を求めて訪れる人が非常に多い。

- ・永山記念公園の良いところはどこかという質問にも、緑が良いと 88 人が答えており、日陰・木陰が良いと答えている 54 人と合わせると、ほとんどの方々がこの公園の魅力は日陰と緑であると考えていることが分かる。我々は、こういった方々の「今の緑を残して欲しい」「大事に思っている」ということを大前提にして、次の絵を描いていかなければならない。
- ・逆に悪いところはどこかという質問には、「ゴミ」「ホームレス」という言葉や、緑が大事な反面、その緑によって見通しが悪くなり、「暗い」といったマイナス面も出てきた。その他の少数意見では、「遊具がない」「交通の便が悪い」「自動販売機がない」など多岐にわたってあった。
- ・こんな公園になったらいいなという意見を募ったが、聞き取り調査の段階で、「周辺住民が増えているので、やはり遊具が欲しい」、「休憩施設がまだ足りない」、「このままの緑・自然が大事」という声もあったが、一番多かったのは「今のままで良い」というものだった。つまり、今のかたちを大きく変えないで欲しいということが、このアンケートの中から見えてくる。したがって、どういう機能をどういうデザインに入れていくかは、非常に慎重にやらなければならないと思う。そこで、このアンケートはもう少し継続し、最終段階の秋のアンケートをもう一回今月中に行う。
- ・資料裏面の「永山記念公園アンケート中間成果：ヒアリング位置」は、アンケートの聞き取りをどこで行ったか、参考までにプロットした図である。人が居る所で聞き取りを行っているので、現状での人の流れのゾーンが見えてくると思うので、こういった所を重点的に整理していかなければならないのかという目安になるかと考えている。色の違いは時間帯を示しており、時間によって人の集中する場所が変化している。例えば、昼休み時間になると黄色が水路付近に集中しており、ファクトリーや周辺の企業の方々が出てきてここで休憩している絵が見えてくる。
- ・こういった調査と平行して、明日 10 月 10 日土曜日に、まず現場でこういった方々に呼びかけをし、現場で、皆で考えようというミニツアーを企画している。何かを描く時に、1 本 1 本の木をどう扱うかまで決めなければ絵を描くことはできないので、そういった共通認識を皆さんで持ちましょうということで、樹木医の先生にお越し頂き公園の中を一緒に歩く。それに基づき、11 月 14 日の第 2 回には、このようなイメージをつくるというプロセスまで、この時点での絵を委員の方々にまた見ていただき、考え方を確認いただきたいと思う。
- ・11 月 14 日に向けて、もうひとつ平行で行っているのが、市立中央小学校から「永山記念公園安全マップをつくろう！」というマップ作りの授業である。そこの成果も併せて発表するというので、できるだけ地域合意を取りながら、案を作成していく。

(平井副委員長)

- ・大変分かりやすいデータで参考になる。先ほど滞在頻度の話が出たが、これも基本的に同じ考え方で、安全安心を考える時に、動線をできるだけ誘導する明確なサインとして、そこに張り出している枝に関しては比較的強度の剪定をするが、人が下を通る確立の非常に低い所は、ある程度弱い剪定にすることで、緑の総量は確保しつつ、人が多く通る所だけは落枝が少なくなるようにする考え方にこれからはなっていくと思う。そういったことも、この機会に色々検討していただければと思う。

(小澤委員長)

- ・先ほどノーザンクロスさんからのご提案にも出ていた、夜間の魅力を演出する照明デザインの話について。これは建物側で考えていただいているが、永山邸を考える時、どうしても外構の照明と建物自体の照明が上手くいかないと、非常にちぐはぐなものになってしまう。更に広げると、公園自体の照明がどうなっているのかということがある。公園があって、永山邸ということで考えなくてはいけない。例えば、公園だけに水銀灯などをつけたりすると、おかしいことになってしまう。そこを早急に検討できるよう持っていかないといけない。
- ・それと同時に、デザインするだけではなく、照明もそうだが、誰がどこの範囲を管理するのか。この検討を踏まえながら、建物のコンセプトと合わせて、早い時期に検討する必要があると思った。その辺りを詰めていただき、体系と体制を整えていただけたらと思う。

6) その他

(事務局)

- ・長時間に亘ってのご検討、ありがとうございました。
- ・次回は、第3回検討委員会は、来年1月を予定している。